

UK

UK REPORT

New Products

KaVo NOMAD Pro2
/アイデンス

<ハンドヘルド型コードレスX線システム>



アイデンスから発売された“KaVo NOMAD Pro2”は、従来品の「NOMAD」の上位モデルとして米国 Aribex 社のハイテク技術を結集した、ハンドヘルド・バッテリー駆動コードレスX線です。バッテリー駆動、ポータブル設計、高い安全性の特性から、訪問診療はもちろん電源供給のない災害現場などでも有効に活用することができます。

【特徴】

- 放射線漏洩を防ぐ独自の内部シールドと後方散乱防止シールドにより術者を被ばくから確実に守ります。
- 人間工学に基づきデザインされたグリップ部は撮影時の安定性をより一層向上します。
- 視覚化されたアイコン操作によりアナログからデジタルまで幅広く対応。撮影画像も高品質の画像を提供します。
- コードレスにより移動や手の動きに制限がなく、軽量化によりスムーズな撮影を実現します。
- グリップ型バッテリーはリチウム電池を採用し、繰り返し充電が可能です。

標準価格＝本体一式 920,000円

GIマスク オートミックス
& 3D/ヨシダ
<ガム模型作製用材料>

▲GIマスクオートミックス スターターキット



▲GIマスク3D スターターキット

ヨシダから発売された“GIマスクオートミックス”と“GIマスク3D”は、模型上で歯肉のマスキング形成（歯肉の再現）をするために用いる付加重合型シリコン材です。補綴物作製時に歯肉の再現をすることにより、より的確な補綴物を作製することができます。

【特徴】

- 優れた弾性と耐引裂性により、模型から取り外す際に破れにくく、操作しやすいシリコン材です。
- GIマスク3Dは、光学スキャナーでのスキャンができるよう、スキャンパウダーの成分が含まれており、均一なスキャンが可能です。
- 付属のシリコン用トリマーはGIマスクのスムーズなトリミングを可能にします。
- 硬化時間は練り開始後から7分。

標準価格＝

- ・GIマスクオートミックス 15,000円
- ・GIマスク3D 16,600円

セラベティ プレスベスト/松風
<プレセラミックス用りん酸塩系埋没材>

松風から発売された“セラベティプレスベスト”は、プレス用セラミックスに使用するりん酸塩系埋没材で、優れた操作性と鑄込み性を有し、プレス作業をさらに効率よく、正確に行うことができます。また、埋没材との焼き付きを抑え良好な面性状を実現します。

【特徴】

- 膨張調整量の幅を広げ、さまざまな症例に対して良好な適合が可能となるように設計。
- 松風独自の粒度調整により、鑄型強度を維持したままで、プラスト処理による掘り出し性を向上させることに成功。安定したプレスと作業効率の向上に寄与します。
- 埋没材がプレス体表面に焼き付きにくいいため、プレス体の品質・適合性が向上します。
- 高い流動性と適度な操作時間での埋没が可能です。
- 掘り出し時は鑄型が割れにくく、焼き付きが少ない面性状です。また、掘り出し後のフッ酸処理不要で調整と仕上げが行えます。

標準価格＝

- ・粉3kg (100g×30袋) 18,800円
- ・液300ml 1,800円

My Recommendation

『A-dec 400』

<イボクラールピバデント>



標準価格＝標準仕様 4,195,000円

患者さんにリラックスした治療を！

今回ご紹介させていただく商品は、イボクラールピバデント(株)から販売されております診療用ユニット『A-dec400』です。A-decのユニットは、故障の少なさ・耐久性の高さ・維持費(ランニングコスト)の安さ・メンテナンスのしやすさを追求し、長くお使いいただけるように設計されています。その自信から、A-decのユニットは、5年の保証期間があります。定期点検も1ヶ月・6ヶ月・12ヶ月・これ以降は年に1回ずつ定期点検があります。もう一つの特徴は、治療中の患者さんのストレスを取り除くために、座り心地の良さを追求しています。独自のクッション材を採用し、患者さんの体を圧迫する箇所を減らし、体全体をやわらかく包み込むことが出来ます。また、椅子の動きが患者さんの自然な動きに対応するため、椅子が上下しても姿勢を直す必要がなく、長時間でも快適に座り続けられます。

ご使用いただいております医院様からは、「患者さんから座り心地が良いと言われるので、長時間のオペでもストレスなく診療出来る。」とお声をいただいております。詳細につきましては弊社営業担当者までお問い合わせください。

熊本店 営業三課 石坂 高大

歯科医院経営を考える(508)

デンタル・マネジメント・コンサルティング
稲岡 勲

～ 長期的な投資で国力の回復を ～

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。
今年はおリンピックが開催され賑やかな一年になりそうだが、経済の面から見ると極めて厳しい状況になるのではないかと危惧せざるを得ない。内閣府が9月11日、日本経済GDP(国内総生産)は0.3%と公表したが、10月から消費税が10%に引き上げられ、その影響がはじめており、10月以降は大きく経済が後退すると予想されている。それを食い止めようとして税制改正が検討されている。一方で大企業の決算発表では2018年度449兆円の過去最高の内部留保益が出たと公表しており、経団連の発表によれば、冬のボーナスの平均妥結額は964,543円だという。大変結構なことではあるが、派遣社員制度が出来て正社員の雇用調整弁としての機能が有効に働き、余分な人材を抱え込まなくても済み、そうした費用が浮いて空前の利益を出している。また大企業の多くは海外に進出して多国籍化している。同時に有能な人材を求めて海外に進出し、工場移転や研究所を次々と海外移転させているのが現状である。日本国籍の企業ではあっても、その利益の大半は海外での活動によるもので、国内の稼ぎは2割程度だと言われている。一方で派遣社員制度等により所得格差が拡大し、子供食堂が各地で繁盛して子供7人に1人が貧困化していると言われている。平成29年の生活保護世帯数は164万世帯、214万人となり、生活保護費は3兆8,404億円となっている。こうした現状を踏まえると、今一番重要な経済対策は、我が国のGDPを高める経済政策である。国の資金を投下して国内のGDPを引き上げる政策を徹底して打ち出すことである。そのためにも国内での研究投資を高め、国内の技術力を高めることである。ところがマスコミの報じるところによれば、政府は京都大学の山中伸弥教授(iPS細胞研究所所長)のiPS備蓄事業に対して年間10億円の予算を打ち切ると伝えられたと報じている。「京大が進めている事業化への方針だと多額の費用と試験の手間がかかる」と企業側が判断したというが、企業の目先の判断にどうして国が動かされるのか、もっと国は長期展望を持つべきではないか。

(つづく)

※玉井ニュース 2020年 1月号より転載。

New Books & Video

★今週の新聞

月刊「歯科技工」別冊

『ラボサイドが知っておきたい補綴装置のその後』
～治療に至った原因からlongevityを考える～

歯科技工士にとって補綴装置の装着後の経過を追うことは難しいのが現状であるが、患者により良い補綴装置を提供するためには、どのような材料を選択し、形態を付与すれば longevity を得られるのかという視点を持つことは不可欠である。機能的・審美的に長期に安定する補綴装置を製作するためのポイントを、わかりやすくまとめた一冊。

- 編 = 藤本 博
- 出版 = 医歯薬出版
- 価格 = 5,900円 + 税

隔月刊「補綴臨床」別冊

『オクルーザルコンタクト A to Z』
～良好な咀嚼運動のために～

本書は、既刊の『D.シュルツのNATワックスアップ』の改訂版に位置付けられる、ドイツで発行された『SEITENZAHNE VON A-Z』の翻訳版。D.シュルツの理論を継承し、それに新たなメソッドを融合した著者が咬合面形態の構築方法を細かく整理した一冊。

- 著 = Ztm. Gunther Seubert
- 訳 = 大島 一成
- 出版 = 医歯薬出版
- 価格 = 6,500円 + 税